



**新** 田さんは、工房「帆」代表として、ふるさとの海水を使って塩を生産しています。

学生時代は器械体操の選手でした。進学した高校では体



**地域おこし協力隊が  
出会った素敵な人紹介**  
釜焚自然塩「カムイ・ミンタルの塩」を生産

**新田 尚司さん**  
工房「帆」代表

操部はなく「ないなら作ってしまおう!」と2年掛かりで新しい部活を設立してしまっただけ。バリエーション溢れる体育会系男子でした。

現在は(有)東洋土木設計の代表を務める傍ら企業内起業で、自然資源を活用した海水100%の塩造りを事業として始めています。地域では前代未聞のこの事業。立ち上げた当初は沢山の人が猛反対したそうです。

塩事業を始めて試行錯誤を繰り返しながらペースや基盤を作るのに費やした時間は約2年。新しいお店ができたことと必ず行くほど食べるのが大好きで、それが故に塩造りもこだわりました。

有珠と虻田の境にある「チヤランケ岩」付近沖合からく

み上げた綺麗な海水を、昔ながらの製法にこだわり丁寧に時間をかけて塩をたき上げていきます。

地道な活動の結果、現在では商品価値が評価され、有名ホテル・レストランや洋菓子店・ジェラートショップなどでも使われています。

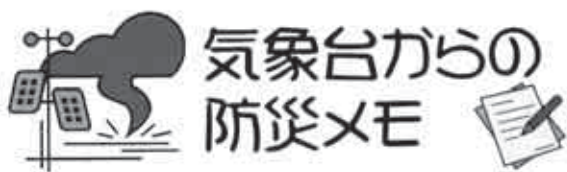
一方、洞爺湖町の特産品として、観光のお土産としても人気が高い商品のひとつとなっています。

何故「塩」なんですかと尋ねると「毎日海を見ていて何かできないかなと思った。少しづつ土木設計の仕事が減ってきたのを感じ、仕事がないなら作ればいい。地元の資源(海水)を使って塩を造ろうと立ち上げた」と語ります。

塩作りの釜の燃料は、そのまま捨てられてしまう廃材や間伐材を使っていて、産業廃棄物の削減にも取り組んでいます。「地域で捨てられてしまうパレット材などの廃材・間伐材があれば是非譲ってください」と話します。

今後も様々な企画を構想していて「ないものを、欲しいものをつくる」とやむなき挑戦は続きます。

(宮本)



**地震が起きたときの安全地帯**

自宅にいるときに突然大きな揺れに襲われたら、あわてず落ち着いて、怪我をしないように自分の身の安全を確保する行動を取ることが重要です。

特に、震度6以上の揺れになると、家の中では電化製品や家具が倒れたり、棚のものが落ちる、ガラスが割れて飛び散るなど、普段何気なく使っているものが突然、凶器になってしまう場合があります。

「安全地帯」とは家の中でも家具が倒れたり、壁にかけた額などが落ちてこない場所、数分間そこに避難すれば怪我をしないで地震をやり過ごせる場所を意味します。「住宅・建造物の耐震化」、「家具など

の転倒・移動防止」、「備品の落下防止」、「ガラスなどの飛散防止」などを行い、安全地帯を準備しておくとともにその場所を把握しておきましょう。

地震はいつ起こるかわかりませんから、地震に対する普段からの備え、正しい心構えを身に付けておくことが大切です。

